



# 和歌について調べるには

HP <https://library.toda.saitama.jp/>

「花の色は 移りにけりな いたづらに…」

突然、思い出してしまったこの歌の冒頭。でも「続きがわからない。」「誰が詠んだ歌かも知りたい」という経験はありませんか？今回は、和歌の一部分から全文を知る方法や、和歌の意味や作者について知りたいとき、活用できる資料を紹介します。

## 目次

p.1 [「和歌」とは何かを調べる。](#)

p.2 [和歌の一部から全文を明らかにする方法](#)

p.5 [和歌の意味を調べる。](#)

p.8 [和歌を詠んだ作者について調べる。](#)

p.10 [和歌に関する雑誌記事、研究論文を探す。](#)

## 「和歌」とは何かを調べる。

「和歌」と「短歌」ってどう違うの？「和歌」と「俳句」って何が違うの？そもそも「和歌」って何？という疑問をお持ちの方もいるはず。そんな方には、まず「和歌」とは何か分かる資料を紹介します。

どんな言葉を調べる時でも、一般的な定義を知りたい場合は専門の事典ではなく、国語辞典や百科事典を見てみましょう。

⇒例えば戸田市立図書館本館・参考資料室には、こんな本があります(一例)。

『総合百科事典ポプラディア』新訂版 ポプラ社 2011年 分類 R031/ソ

「和歌」については11巻 p.235 に載っています。

和歌は「日本に古くからある定型詩。(中略)中国の漢詩に対して日本の歌という意味で、和歌といった」とあります。

また、古来、和歌は短歌、長歌、旋頭歌など形態の違う様々な歌をすべて指したが、時代とともに短歌以外の歌がすたれ和歌は「短歌」を指す言葉へと変化したともあります。

『世界大百科事典』改訂新版 平凡社 2007年 分類 R031/セ

「和歌」については30巻 p.515 に載っています。

和歌は「〈からうた〉（中国の詩）に対する〈やまとうた〉（日本の歌）の意」「実際にその指すところは短歌であることがほとんどである」とあります。

また、「歌謡、連歌、俳諧、俳句、近代詩は和歌に含めることはなく、近代以後の短歌も和歌と呼ぶことは少ない」とあり、時代とともに、和歌の意味するところは微妙に変化していると記述されています。

『日本国語大辞典』第二版 小学館 2001年 分類 R813.1/ニ

「和歌」については13巻め、p.1,233 に載っています。

和歌は「漢詩に対して日本の歌」を意味し、「長歌、短歌、旋頭歌、片歌など五・七音を基調とした定型詩であるが、歌体の消音に伴って短歌が和歌を意味するようになった」とあります。

◎本館参考資料室にある資料は貸出できません。館内での閲覧のみとなります。

◎上記以外にも、同じ分類の棚には数種類の百科事典、国語辞典があります。

## 和歌の一部分から全文を明らかにする方法

### ◆本で調べる。

冒頭でも述べましたが、和歌の一部がわかっているけど、その全文はわからないといった場合、和歌を検索するための参考資料を使えば、和歌の全文や作者、収録歌集などの特定ができます。

⇒例えば戸田市立図書館本館・参考資料室には、こんな本があります(一例)。

『典拠検索新名歌辞典』 明治書院 2007年 分類 R911.1/ナ

「和歌」の冒頭から検索できます。

明治以前の名歌約 8,000 首を、歌の出だしの 50 音順で配列しているため、歌の第一句がわかっているだけで簡単に検索できます。探している歌の全文と、どの歌集に収録されているか、誰の詠んだ歌かが特定できます。

ただし、すべての歌を網羅しているわけではないので、ある程度、有名な歌であることが条件となります。

『校註国歌大系』歌集全 23 巻、索引全 6 巻 講談社 1976年 分類 R911.1/コ

「和歌」の第一句と第三句から検索できます。

基本は記紀歌謡から明治初期の諸家集までを 23 巻に収録した歌集ですが、総合索引は和歌の第一句と第三句の 50 音順に配列されているため、和歌の検索が可能です。

また、各巻の歌集には解題や頭註がついているため、和歌を特定するだけでなく研究書としても活用できます。

『日本秀歌秀句の辞典』 小学館 1995年 分類 R911.0/ニ

「和歌」の冒頭から検索できます。一部、キーワードからも検索できます。

古代から現代にいたるまでの和歌、俳句、詩、約 6,000 句を収録。第一句の 50 音順に配列した索引で和歌を特定することが可能です。

また、一部、和歌のキーワードから引くことができる索引もあるため、第一句が不明でもその歌の特徴的なキーワードが判明している場合は、和歌を特定することが可能です。収録和歌には簡単な解釈もついています。

『日本古典文学大系索引』全 2 巻 岩波書店 1980年 分類 R910.2/ニ

「和歌」の冒頭から検索できます。

『日本古典文学大系』全 100 巻の総索引で、1 巻めは 66 巻まで、2 巻めは 67～100 巻までを収録しています。いずれも後半部が「和歌・俳句・歌謡」の初句索引（第一句から引く索引）になっており、本編に収録されている和歌を検索することが可能です。

ちなみに本編は貸出可能資料なので棚にない場合は閲覧できませんが、索引からも収録歌集は特定可能です。

『新編国歌大観』全 10 巻 角川書店 1983-1992年 分類 R911.1/シ

「和歌」のどの部分からも検索できます。ただし索引は収録歌集ごとについています。

各巻は歌集・索引の 2 冊からなり、それぞれ「勅撰集編」「私撰集編」「私家集編」…と歌集の形態ごとに巻がわかれています。索引は各巻ごとにあり、歌本文のどの句からも引けます。そのため冒頭部分が不明でも、歌の一部がわかれば検索が可能です。

ただし、索引は巻ごとに付されているので、収録歌集が不明だとすべての索引を引くことになり、和歌の特定には時間を要します。

◎本館参考資料室にある資料は貸出できません。館内での閲覧のみとなります。

◎上記以外にも、同じ分類の棚にはいくつかの同類の資料があります。

「花の色は移りにけりないたづらに…」の歌を上記資料で検索すると…

これは百人一首にも収録されている有名な和歌です。歌の冒頭部分が判明しているため、この場合、『典拠検索新名歌辞典』で検索するのがよいでしょう。

ただし、これが「移りにけりな」もしくは「いたづらに」しかわからない場合は、『新編国歌大観』の索引を使って調べます。

結果、この歌は「花の色は移りにけりないたづらに わが身世にふるながめせしまに」というのが全文で、詠んだのは小野小町、「古今和歌集」に収録された歌だということが分かりました。

[▲このページのトップへ戻る。](#)

## ◆インターネットで調べる。

インターネット上で、和歌を調べるためのデータベースを無料公開している研究機関があります。どの句からも検索が可能なので、本で調べるよりも手軽に利用できます。ただし、収録歌集には限りがあるので、すべての和歌を検索できるものではありません。

⇒例えば、代表的なサイトとして下記のものがあります。

和歌データベース[国際日本文化研究センター]	
アドレス	<a href="http://tois.nichibun.ac.jp/database/html2/waka/menu.html">http://tois.nichibun.ac.jp/database/html2/waka/menu.html</a>
調べられること	勅撰集 21 種、万葉集、夫木和歌集などの私撰集及び主要な私家集の和歌についてデータベース化したもので、和歌の一部から和歌を特定することができます。
検索方法	検索窓に、判明している歌の一部を「ひらがな」で入力し、検索すれば候補が出ます。画面の指示に従い該当する和歌の詳細画面を出せば、作者や収録歌集が特定できます。
二十一代集データベース[国文学研究資料館]	
アドレス	<a href="http://base1.nijl.ac.jp/~anthologyfulltext/">http://base1.nijl.ac.jp/~anthologyfulltext/</a>
調べられること	勅撰集 21 種の和歌についてデータベース化したもので、和歌の一部から和歌を特定することができます。
検索方法	検索窓に、判明している歌の一部を「ひらがな」で入力し、検索すれば候補が出ます。該当歌の番号を選択すると和歌の詳細画面を見ることができます。作者や収録歌集が特定できます。

◎勅撰集とは、天皇または上皇の命令にもとづいて編纂された和歌集のことで、905年に完成した『古今和歌集』から1439年の『新続古今和歌集』まで、21の和歌集のことをさします。（『ポプラディア 7巻』p.91参照）

ちなみに21の和歌集は以下の通りです。古今集、後撰集、拾遺集、後拾遺集、金葉集、詞花集、千載集、新古今集、新勅撰集、続後撰集、続古今集、続拾遺集、新後撰集、玉葉集、続千載集、続後拾遺集、風雅集、新千載集、新拾遺集、新後拾遺集、新続古今集。（『和歌大辞典』p.779参照）

◎私撰集とは、勅撰集に対して、私に、広く多数の歌人の歌を撰定・編集した歌集のことです。（『広辞苑 第六版』p.1,233参照）

◎私家集とは、個人の歌を集めて作った歌集のことです。（『広辞苑 第六版』p.1,200参照）

[▲このページのトップへ戻る。](#)

# 和歌の意味を調べる。

## ◆和歌の事典・辞書で調べる。

⇒例えば戸田市立図書館本館・参考資料室には、こんな本があります(一例)。

『新編和歌の解釈と鑑賞事典』 笠間書店 1999年 分類 R911.1/シ
古代から現代まで 335人の秀歌 843首を鑑賞した事典。 その時代を代表する歌人を活躍した年代ごとに並べ、とりあげた歌人の略歴と代表歌 1首を鑑賞した事典です。代表歌が複数ある歌人については2~3首を紹介しています。 巻末には初句索引(第一句から引く索引)、歌人名索引がついています。
『図説和歌と歌人の歴史事典』 遊子館 2010年 分類 R911.1/イ
古代から中世まで 170人の歌人の略歴および時代背景を解説、代表歌を紹介した事典。 その時代を代表する歌人および時代背景を、代表歌を織り交ぜながら解説したもので、脚注には登場人物の略歴や関係図版などを掲載、歌人の肖像などを見ることができます。 巻末には収録和歌の50音順索引があります。
『和歌鑑賞辞典』 東京堂書店 1982年 分類 R911.1/ワ
古代から江戸までの歌人約 330人の代表歌をとりあげ鑑賞したもの。 収録歌人を時代ごとに50音順に並べ、代表歌を鑑賞した辞典です。平安以前は詠み人のわからない和歌も取り上げています。巻末には初句索引(第一句から引く索引)があります。
『日本名歌集成』 学燈社 1988年 分類 R911.1/ニ
古代から現代までの名歌 2,007首の歌意と鑑賞がのっています。 収録歌人を時代ごと活動順に並べ、代表歌を鑑賞したものです。平安以前は詠み人のわからない和歌も取り上げています。 巻末には収録歌を50音順に並べた索引、収録歌人の50音順索引があります。

◎上記以外にも、同じ分類の棚には数種類の和歌の事典・辞典があります。

◎本館参考資料室にある資料は貸出できません。館内での閲覧のみとなります。

## ◆収録歌集の注釈書で探す。

有名な歌集であれば、その歌集ごとに注釈書があります。

戸田市立図書館で所蔵している注釈書を探すには、直接、棚に行って探す方法と、当館のOPACで探す方法があります。

### テーマの棚に行って本を探す。

図書館の本には1冊ずつテーマを表す分類番号があり、その番号は本の背表紙に貼付されています。棚の本はすべて分類番号順に並んでいますので、本を探す際は、以下の分類番号を参考にしてください。

・「和歌」に関する資料を探す際、参考になる分類記号は以下のとおりです。

210.0	日本史	281.0	人名辞典	910.2	日本文学史
911	詩歌	911.1	和歌	918	日本文学の全集

### OPAC で調べる。

- ・当館所蔵の資料は、オンライン目録(OPAC)で探すことができます。
- ・検索する際のキーワードは、「和歌」「短歌」といった大きな概念ではなく、例えば「古今和歌集」「万葉集」といったキーワードで検索した方が、より候補をしばりこむことができます。  
⇒例えば「古今和歌集」で検索すると、以下の資料が候補として出てきます(一例)。

『新日本古典文学大系 5 古今和歌集』 岩波書店 1989年 分類 918/シ/5 本館 1階
巻末に初句索引(第一句から引く索引)があります。「花の色は」の歌は p.49 にあり、脚注に歌意、語釈が付されています。

◎「古今和歌集」の注釈本は、上記以外にもいくつかあります。

### 県内の所蔵状況を調べる。

戸田市立図書館に所蔵がなくても、埼玉県内の図書館に所蔵があれば本を借り受けて利用することができます。県内の図書館にどのような資料があるかを検索する場合は、「埼玉県内図書館横断検索」を使います。

#### 埼玉県内図書館横断検索

アドレス	<a href="http://www.lib.pref.saitama.jp/calil/index.html">http://www.lib.pref.saitama.jp/calil/index.html</a>
調べられること	埼玉県内の公共図書館、大学図書館、県の施設等で所蔵している資料を一度に検索できます。
検索キーワード	検索する際のキーワードは、2ページの「OPACで調べる。」を参考にしてください。

### 国立国会図書館の所蔵状況を調べる。

国内で刊行された資料を検索する場合は、国立国会図書館サーチを活用しましょう。

#### 国立国会図書館サーチ

アドレス	<a href="http://iss.ndl.go.jp/">http://iss.ndl.go.jp/</a>
調べられること	国立国会図書館サーチでは、国立国会図書館、都道府県立図書館、政令指定都市の市立図書館等の蔵書をまとめて検索することができます。また、国立国会図書館及び他機関が収録している各種のデジタル情報も探すことができます。
検索キーワード	検索する際のキーワードは、2ページの「OPACで調べる。」を参考にしてください。

当館で所蔵していない資料を利用したい場合は、リクエストカードを記入しカウンターへお出してください。なお、資料の取寄せには時間がかかります。また、国立国会図書館の資料、県内図書館の参考資料及び郷土資料については、館内での閲覧のみ、貸出不可等利用制限があります。詳しくはカウンターまでお問合せください。

## ◆歌を詠んだ人仏に関する本から探す。

有名な歌人が詠んだ歌であれば、その歌人に関する研究書の中に歌の解釈が載っている場合があります。

資料の探し方、前述の「収録歌集の注釈書を探す方法」と同じです。検索キーワードを歌人の名前に変えて検索してください。

⇒例えば「小野小町」で検索すると、戸田市立図書館には、こんな本があります(一例)。

『**閨怨の詩人 小野小町**』三省堂 1979年 分類 911.13/ヤ 本館 1階

文中 p.158～「花の色は」という章があり、「花の色は…」の歌について触れている箇所があります。また、巻末の「参考文献」には「古今和歌集」や「小野小町」に関する文献が多数紹介されているので、これらを頼りにほかの資料を探すことも可能です。

『**在原業平 小野小町**』筑摩書房 1973年 分類 911.13/メ 本館 1階

巻末の和歌索引で掲載ページの特定ができます。小野小町の「花の色は」という和歌については p.163～記述があります。

◎「小野小町」に関する資料は、上記以外にもいくつかあります。

[▲このページのトップへ戻る。](#)

## 和歌を詠んだ作者について調べる。

和歌を詠んだ歌人、または選者について調べたいときは、事典・辞典で調べる方法と、歌人について書かれた本をじっくり読む方法があります。

歌人について書かれた本は、前項の「歌を詠んだ人物に関する本から探す」と同じ方法で探せますので参照してください。

事典・事典で調べる方法には以下の4つの方法があります。

### ◆和歌の事典、辞書で調べる。

和歌の事典に関しては、前項「1)和歌の事典・辞典で調べる」で挙げた資料でも調べることができますので参考にしてください。ここでは、それ以外の資料を紹介します。

例えば戸田市立図書館の参考資料室には、以下のような本があります(一例)。

『和漢詩歌作家辞典』 みづほ出版 1972年 分類 R911.0/モ 本館2階参考資料室
日中の漢詩、和歌、俳句作家について調べることのできる辞典。 人名の50音順に配列。各人物ごとに生没年、代表作、作風を示す作例、著作が記されています。 約1,500人を掲載していますが、掲載人物は漢詩、俳句の作家も含まれており、更に時代も現代までの広範囲にわたっています。
『和歌俳諧史人名事典』 日外アソシエーツ 2003年 分類 R911.0/ワ 本館2階参考資料室
古代から幕末まで歌人・俳人・漢詩人を中心に2,963人の略歴を紹介した事典。 人名の50音順に配列。生没年、活動時期、職業、別名、経歴と簡単な略歴を調べることができます。 収録人数は多いですが、その代わりに、歌人の人となりについては簡単な記述のみなので、多くを調べたい場合は別の事典を使ってください。

◎本館参考資料室の本は貸出できません。館内の閲覧席でご覧ください。

### ◆日本文学の事典、辞書で調べる。

有名な歌人であれば、日本文学および古典文学の事典や辞典で調べることができます。

例えば戸田市立図書館の参考資料室には、以下のような本があります(一例)。

『日本古典文学大辞典』全6巻 岩波書店 1983-1985年 分類 R910.2/ニ 本館2階
近世末までの日本古典文学に関する事項約1万3,000を収録する大辞典。 50音順に配列。歌人の経歴、作品、作風についてかなり詳細な解説が加えられています。その解説量は同種のどの辞典よりも豊富です。
『新潮日本文学辞典』 新潮社 1988年 分類 R910.3/シ 本館2階
古典から現代にいたる日本文学の名・事象など2,627項目を収録した辞典。 50音順に配列。コンパクトな辞典の割には、1項目ごとの解説が豊富です。難読漢字にはふりがながつき、文章も読みやすいため、手軽に利用できる辞典です。



『日本古典文学大事典』 明治書院 1998年 分類 R910.2/ニ 本館2階

上代から近世までの古典文学の人名・事象など 8,000 項目を収録した事典。  
50 音順に配列。今回紹介した資料の中では比較的新しい事典ので、調査内容によっては新しい情報が調べられます。

◎本館参考資料室の本は貸出できません。館内の閲覧席をご覧ください。

## ◆人名辞典で調べる。

有名な歌人であれば、人名辞典から調べることができます。

前述の専門事典ほど詳細には調べることができませんが、略歴だけを急ぎ調べたい場合に活用できます。

例えば戸田市立図書館の参考資料室には、以下のような本があります(一例)。

『国書人名辞典』全 5 巻 岩波書店 1993-1999年 分類 R281.0/コ 本館2階

『国書総目録』収録文献の著編者の中から約 3 万人について解説した辞典。  
人名の 50 音順に配列。生没年、号、別名、家系、経歴、著作物、参考文献などを調べることができます。

『日本女性人名辞典』 日本図書センター 1993年 分類 R281.0/ニ 本館2階

古代から現代にいたるまでの日本人女性約 7,000 人について解説した辞典。  
人名の 50 音順に配列。活躍した時代、出生地、父母、別名、事績、著書などを掲載。巻末には旧姓や別名、院号から引ける人名索引もついています。

◎本館参考資料室にある資料は貸出できません。館内での閲覧のみとなります。

◎人名辞典はほかにも多数あります。同じ分類の棚をご覧ください。

## ◆日本史の事典、辞典で調べる。

歴史上有名な歌人であれば、日本史の事典、辞典から調べることができます。

例えば戸田市立図書館の参考資料室には、以下のような本があります(一例)。

『国史大辞典』1-15 巻 吉川弘文館 1979-1997年 分類 R210.0/コ 本館2階

国内最大の日本史辞典。  
配列は項目の 50 音順。参考文献が豊富に紹介されているため、それを元に更に調べをすすめることができます。文学の辞典とは異なる角度からの人物像を見ることができます。

『角川日本史辞典』 角川書店 1996年 分類 R210.0 /カ 本館2階

原始・古代から現代まで日本史に関する事項約 1 万 6,000 項目を解説した辞典。  
50 音順に配列。コンパクトな辞典なので、簡単な人物像を知りたいときに利用できます。

◎本館参考資料室にある資料は貸出できません。館内での閲覧のみとなります。

◎日本史辞典はほかにも多数あります。同じ分類の棚をご覧ください。

## 和歌に関する雑誌記事、研究論文を探す。

1冊の本になっていなくても、雑誌で特集を組んでいたり、研究論文が発表されていたりした場合、以下の方法でその情報がいつ、どの雑誌に掲載されたかを調べることができます。

### オンラインデータベース「MAGAZINEPLUS」を使う。

「MAGAZINEPLUS」は雑誌・論文を検索するためのデータベースです。

本館2階カウンターで利用することができます。

利用に関する詳細は、「[当館で利用できるオンラインデータベース](#)」のページを参照してください。

⇒例えば、「MAGAZINEPLUS」で「小町」と「花の色は」で and 検索をすると、以下のような記事を探ることができます。

「雑誌名」号数／出版社／版年／記事タイトル
「国文学 解釈と教材の研究」1988年6月号 学燈社／1988年／「古今和歌集評釈」p.146-151
「解釈」2010年3,4月号 解釈学会／2010年／「小町詠・花の色は・を読みなおす」p.27-33

※「MAGAZINEPLUS」では掲載記事の内容を閲覧することはできません。記事の内容は該当の雑誌をご覧ください。戸田市立図書館に所蔵がない雑誌は、埼玉県内の図書館で所蔵があれば取寄せることは可能です。

※なお、県内にも所蔵がない雑誌については取寄せができません。所蔵機関を調査することはできますが、その場合は直接、該当機関へご来館ください。

### 記事論文を探すための検索サイトを使う。

雑誌記事を検索するための主なウェブサイトは以下のとおりです。

NDL ONLINE（国立国会図書館オンライン）	
アドレス	<a href="https://ndlonline.ndl.go.jp/">https://ndlonline.ndl.go.jp/</a>
調べられること	国内最大級の学術雑誌記事データベースです。1948年以降（1948年～1964年は人文・社会系のみ）の雑誌記事が検索できます。登録すれば複写申し込みも可能です。※当館への取り寄せはできません。
学術研究データベース・リポジトリ	
アドレス	<a href="https://dbr.nii.ac.jp/infolib/meta_pub/G9200001CROSS">https://dbr.nii.ac.jp/infolib/meta_pub/G9200001CROSS</a>
調べられること	国立情報学研究所が公開するデータベース・サービスです。国内の学会、研究者、図書館等が作成している各種専門分野のデータベースを横断検索できます。

※この他、当館が作成したリンク集「[記事・論文を探す](#)」のページでも記事論文を探すためのウェブサイトを紹介しています。参考にしてください。

[▲このページのトップへ戻る。](#)